

# 澤口 晋一 教授が「ラムサール条約湿地自治体認証記念シンポジウム」に出演します

本学 国際学部 国際文化学科 澤口 晋一 教授が、2023年2月5日（日）に開催される『ラムサール条約湿地自治体認証記念シンポジウム』に、パネリスト「新潟市里潟研究ネットワーク会議 座長」として出演します。

「新潟市里潟研究ネットワーク会議」は、新潟市内に残る16の潟を新潟市の宝と捉え、その魅力と価値を掘り起こし、賢明な利用、保全について考えることを目的として、新潟市環境政策課の中に置かれた組織です。

会議では潟の魅力や価値を発信するため、シンポジウムを開催するなど活発に活動しています。

また、新潟市の16の潟についてガイドブックの作成も進行中で、これまでに北区の「十二潟ガイドブック」（2020年）、東区の「じゅんさい池ガイドブック」（2021年）、西蒲区の「上堰潟ガイドブック」（2022年）を発行してきました。

現在、ラムサール条約登録湿地である、西区の佐潟のガイドブックの作成に取り組んでいます。

## ラムサール条約湿地自治体認証記念シンポジウム

日時：2023年2月5日（日） 13：30～16：30（受付12：30～）

会場：ANAクラウンプラザホテル新潟 3階「飛翔」  
（新潟市中央区万代5丁目11番20号）  
※お越しの際は公共交通機関をご利用ください

申込：定員／先着200名（入場無料）  
新潟市役所コールセンター（025-243-4894）へお申し込みください。  
※申込開始 2023年1月12日（木） 受付時間 8:00～21：00（年中無休）

主催：新潟市 問い合わせ先 環境部環境政策課 電話（025-226-1359）

※クリックで拡大

チラシPDFはこちら

# ラムサール条約湿地自治体認証記念シンポジウム

これからも世界の

ウェットランド

シティ

ニイガタ

## WETLAND CITY NIIGATA

### であり続けるために



Wetland City Network



プログラム

#### 第1部

基調講演

「湿地を賢明に利用し、水鳥との共生を目指す水田農業の歩み」

講師 <sup>くれち まさゆき</sup> 呉地 正行氏 特定非営利活動法人ラムサール・ネットワーク日本理事  
新潟市が認証を受けたラムサール条約締約国会議COP14でのラムサール賞受賞者による講演です。



#### 第2部

事例発表「<sup>いずみ</sup>出水〜ツルと湿地〜」

発表者 <sup>ほらくち ゆうこ</sup> 原口 優子氏 出水市ツル博物館 クレインパークいずみ主任学芸主事  
国内でもう1つの認証を受けた  
鹿児島県出水市の取組事例を紹介します。



#### 第3部

パネルディスカッション

パネリストに、2005年に日本人として初めてラムサール賞を受賞した中村玲子氏のほか国内外で活躍する方々をお迎えします。

〈パネリスト〉 呉地 正行氏 原口 優子氏 (第1部、第2部に引き続き参加)

〈コーディネーター〉

大熊 孝氏

新潟大学名誉教授  
元新潟市潟環境研究所長



中村 玲子氏  
(ラムサールセンター)



佐々木 美貴氏  
(日本国際湿地保全連合)



澤口 晋一氏  
(新潟市里潟研究ネットワーク)



佐藤 安男氏  
(新潟県水鳥湖沼ネットワーク)

日時

2023年 **2月5日** (日) 13:30~16:30(受付12:30~)

会場

ANA クラウンプラザホテル新潟 3階「飛翔」

(新潟市中央区万代5丁目11番20号)

※お越しの際は公共交通機関をご利用ください。

申込

定員／先着**200名** **入場無料**

新潟市役所コールセンター ☎(025-243-4894)へお申し込みください。

※申込開始 1月12日(木) 受付時間8:00~21:00(年中無休)



司会：伊勢 みずほさん  
(フリーアナウンサー)

# ラムサール条約の「湿地自治体認証」とは

湿地の保全・再生、普及啓発、環境教育等の推進に関する国際基準に該当する自治体に対し認証を行うものです。(有効期間6年間、更新あり)

2018年の条約締約国会議COP13で初めての認証が行われ、第2回の認証となる2022年11月のCOP14では13か国25都市、日本から初めて新潟市と鹿児島県出水市が認証を受けました。



今回のシンポジウムでは、田園地域と市街地の豊かな価値を循環させながら都市全体が調和のある発展を遂げる「田園型環境都市」を目指す新潟市が、これからも世界に認められる WETLAND CITY であり続けるにはどうあるべきかについて、国内外の事例を学びながら考えます。



## 〈出演者プロフィール〉



### 第1部 基調講演

呉地 正行氏

(特定非営利活動法人ラムサール・ネットワーク日本理事)

ガン類の渡りの経路の解明や、一時は日本への渡りが途絶えたシジュウカラガンとハクガンの渡りの回復に取り組む。また、2008年ラムサール条約の「水田決議」の採択に主導的な役割を果たし、農業における生物多様性の向上に貢献する。この決議の実施例として、宮城県の蕪栗沼周辺の水田などで地域や行政の協力を得て行っている冬季湛水水田「ふゆみずたんぼ」は、ガン類の越冬地を提供する取組みとして、全国各地に広がっている。2022年、日本人で3人目となるラムサール賞(ワイズユース部門)を受賞。日本雁を保護する会会長



パネリスト

中村 玲子氏 (ラムサールセンター フェロー)

自然・環境ライター。日本とアジアの湿地保全に取り組むNGOラムサールセンター設立に参加し、1990年～2019年事務局長。著書に「湿地への招待」「釧路湿原」他。2005年、日本人で初となるラムサール賞(教育部門)を受賞。



パネリスト

佐々木 美貴氏 (特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合 事務主任)

ラムサール条約登録湿地関係市町村会議の学習・交流会の企画・実務の担当を第1回(2009年)から今日まで務めている。全国各地のラムサール条約の精神(湿地のワイズユース、保全・再生、CEPA)を活かした地域・自治体づくりに長年かかわっている。日本湿地学会事務局次長 法政大学非常勤講師



### 第2部 事例発表

原口 優子氏

(出水市ツル博物館クレインパークいづみ 主任学芸主事)

博物館で主に教育普及活動、ツルの調査やネットワーク関係を担当。現在のテーマは、ツル越冬地の環境改善や渡りの動向の調査および子供たちが地元の自然の豊かさを体験できる講座の開催。趣味は、鳥見と山に行くこと。IUCN(国際自然保護連合)ツル部会専門委員



パネリスト

澤口 晋一氏 (新潟市里潟研究ネットワーク 座長)

博士(地理学)。専門は自然地理学・地形学。新潟の砂丘や潟の存在意義を地形学的な観点から明らかにするため調査・研究を進めている。新潟国際情報大学教授



パネリスト

佐藤 安男氏 (新潟県水鳥湖沼ネットワーク 事務局長)

20代で東京から新潟にUターン後、趣味の登山で深山幽谷「自然を畏れ敬い」を学ぶ。1998年佐潟水鳥・湿地センター開所から勤務。「ハクチョウは今どこ?」という質問をきっかけに、ハクチョウ、ガンの県内連携調査を仲間と始める。まもなく潟の現場で25年。水の駅「ビュー福島潟」事務局長



### 第3部 パネルディスカッション

コーディネーター

大熊 孝氏 (新潟大学 名誉教授)

工学博士。専門は河川工学、土木史。自然と人との共生関係を目指し、河川・湖沼の治水や環境・景観保全に尽力している。著書に、「洪水と水害をとらえなおすー自然観の転換と川との共生(農文協、2020、毎日出版文化賞受賞・土木学会出版文化賞受賞)」など。元新潟市潟環境研究所所長 水の駅「ビュー福島潟」前名誉館長



司会

伊勢 みずほさん (フリーアナウンサー)

宮城県出身。主な出演に「BSNテレビ水曜見ナイト」「BSNラジオ近藤丈晴の独占ごきげんアワー」。主な著書に「がんのち晴れ〜がんセンターギフトという生き方(幻冬舎)」新潟市動物愛護協会理事 新潟薬科大学非常勤講師

## 〈新型コロナウイルス対策にかかわる留意事項〉

- ・新型コロナウイルス感染症防止対策の一環として、当日、受付時に検温を行います。
- ・発熱症状(体温37.5度以上)が確認された場合には、入場をご遠慮いただくことがあります。
- ・ご入場の際は、マスクの着用及び入口付近に設置するアルコール消毒液による手指消毒にご協力ください。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて、開催内容・方法を変更するほか、開催を中止する場合があります。

新潟市 潟のデジタル博物館

NIIGATA City Wetland Digital Museum

URL <http://www.niigata-satokata.com/>

新潟市内に点在する湖沼「潟」に関わる資料や情報をまとめたデジタル博物館です。



World Wetlands Day  
2 February 2023



このシンポジウムは「世界湿地の日」関連イベントとして開催します。